



2009/12/20 平成21年度 天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会

Match Result



試合番号 **211**

A 試合会場レポート

■会場 東京体育館(東京都渋谷区) 試合開始: 15:10 試合時間 2:20
 観客数 3,300 主審: 大塚 達也 副審: 塚本 健



パナソニック パンサーズ

■監督 : 南部 正司
 ■コーチ: 古田 博幸

■第1セット出場メンバー

11 夕アレス	1 清水	6 白澤
	16 (大竹)	8 (川村)
13 忝田	2 宇佐美	15 福澤
	5 (山本)	18 (谷村)

()内は交代選手
 ■リベロ: 17 永野 健

得点	セット時間	得点
19	1set(23')	25
25	2set(27')	23
25	3set(28')	23
29	4set(34')	31
15	5set(16')	13

113	Total	115
3	セット数	2



JTサンダーズ

■監督 : メイフォース ゴードン
 ■コーチ: 久保 義人

■第1セット出場メンバー

9 甲斐	11 ゴメス	1 宮下
		8 (中山)
2 町野	19 井上	13 國近
		4 (小川)

()内は交代選手
 ■リベロ: 3 酒井 大祐

■ Match Comment

いよいよ4月から始まった天皇杯・皇后杯の男子決勝。昨日フルセットの末、東レアローズを倒し決勝にこまを進めたJTサンダーズ、二度目の優勝なるか注目。対するパナソニックパンサーズは昨日堺ブレイザーズをストレートで破り波に乗っている。

JTは昨日同様ゴメス、國近を軸に展開。対するパナソニックも清水、ジョンパウロ、福澤を軸に戦う。しかし、なかなかリズムのつかめないパナソニックに対し、JTがじりじりと点差を広げてゆく。何とか主導権を握りたいパナソニックの宇佐美が多彩なトスワークで翻弄する。また、自らのラッキーなサービスエースから追いつくことが出来た。ここからはリズムを取り戻したパナソニックは得点を重ね、2セット目を取り試合を振り出しに戻す。波に乗るパナソニックをくい止めたいJTとの白熱した展開になる。3セット目21点目を宇佐美のアタックで取り、その差を守りきる。また、4セット目は要所でJTゴメスの強烈なサーブが決まりジュースを制する。ファイナルセットも一進一退であったが14点目のブロックをパナソニックの宇佐美が決め、追いつがるJTを突き放した。パナソニックはこれで天皇杯・皇后杯において11年ぶりの優勝を飾る。

■ Coach Comment: 南部 正司 (パナソニック パンサーズ)

1セット目から終始、相手の勢いに押され、非常に苦しい試合展開となった。最後まで自分達のペースがつかめず、苦しい試合ではあったが、それでも選手全員が、あきらめず何とか勝利に結びつけたことは評価したい。今大会うきぼりになった反省点の一つずつクリアしていき、更に強いチームを作り上げていきたい。

■ Coach Comment: メイフォース ゴードン (JTサンダーズ)

何回かチャンスがありながら、得点につなげることができなかった。全体的に大会を通し成長できたと思う。今日の経験を次に活かしていきたい。大きなご声援ありがとうございました。

■作成者: 柴田 等

※ 本票の著作権は財団法人日本バレーボール協会に帰属します。